

令和7年度 日南町立日南中学校 経営方針

1 こども園（学校）経営の基本理念

①人権教育・特別支援教育がベース

②「日南学」とコミュニティ・スクール

- (1) 「子どもの権利条約」の4つの原則「命を守られ成長できること」、「子どもにとって最もよいこと」、「意見を表明し参加できること」、「差別のないこと」を尊重し、すべての子どもの人権を第1に考えた保育・教育を積み重ねていきます。
- (2) 「日南町園・学校運営協議会」の設置により、各園・学校に保護者や地域住民が参画することを通して、「地域とともにある学校づくり」を行い、日南町ならではの創意工夫された特色ある園・学校づくりを推進していきます。
- (3) 「日南町の子ども教育在り方検討会答申」の具現化に向け、「持続可能なふるさと日南」を創る1歳からのカリキュラムの在り方を検討し、1歳から18歳までの教育内容の充実に向けた「オール日南」の協働的な教育環境を整えていきます。
- (4) 「日南町こども園・小学校・中学校一貫教育（学び舎にちなん）」を実践し、組織的に「学び続ける力」「関わり合う力」「ふるさとを愛する心」の育成をめざし、各発達段階に応じて、意図的・計画的で科学的根拠のある教育実践を園・学校と家庭・地域が協働して展開していきます。

③3つの力と3部会

年間計画とデータ（学教評価、標準学テ、エドゥパス）共有→マネジメント

2 日南町教育目標

「ふるさとを愛し、豊かな人間性と生き抜く力を育み、
持続可能な未来を創造する優れた人材を育成する」

3 校（園）訓

『生き抜く力』

～ 見つめよ自己を 求めよ友を 惜しむな汗を ～

4 本（園）校の教育目標

「ふるさとに学び、夢に向かい、生き生きと輝く子どもの育成」

5 めざす（園）学校像

「主体性」「協同性」を持った

- (1) 夢や目標に向かって努力し、お互いの人権を尊重し、仲間と協働できる子ども
- (2) 子どもの成長を園・学校と連携をとりながら、一緒に見守り支える保護者
- (3) 地域全体で日南の子どもの成長に関わる地域住民
- (4) 教師としての誇りを持ち、新たな理念・方法に自ら研鑽を積む教職員

協同学習の理念の共有

日南中学校

6 めざす生徒像 (主体、共創)

- * 学び続ける力・・・自ら考え、判断し、努力を続け、可能性を伸ばす生徒
- * 関わり合う力・・・違いを理解し、他者を尊重し、共に新たな価値づくりや解決に向かう生徒
- * ふるさとを愛する心・・・自分を愛し、ふるさとや自分の将来に向け、主体的に取り組む生徒

7 めざす教職員像

- (1) お互いの悩みや困り感を素直に出し合え、弱みを補い強みを出し合える。
- (2) 子どもが主体性と責任を持って生活、学習に取り組むよう、生徒に委ねる指導ができる。
- (3) 聞く姿勢(カウンセリングマインド)を第一に対話を重ね子どもや保護者の願い、思いを受け止めたり、学校の情報(様子)を積極的に伝えたりできる。

8 経営のテーマ

『一人ひとりがチーム日南を意識し、皆で動く』

生徒、保護者の情報は、時間をおかず、1人で抱え込まず、報告・連絡・相談をする。
生徒(保護者)に対し、チームとして共通に取り組めるようにする。

※学年団で状況分析・協議→主任会で報告・協議→学年団あるいは学校全体で一手

↓ 各種対策委員会 ↑

各主任は責任を持って教職員に分担をふり、確認し、マネジメントを回すことができる。

9 教育目標実現化のための重点事項及び具体的な方策

- ・園小中一貫教育を推進(理念の見える化と共有、園小中の特性や発達段階を生かし、子どもの学びや育ちの継続性や系統性を持った実践を行う)し、日南町の将来・未来を担って生きる人材の育成を目指します。

(重点事項1)

○関わり合う力の育成

- ・生活や学習の中で困ったり悩んだりしている生徒に対してサポートできたり、自分からヘルプのサインが出せる仲間づくりを行う。
- ・生徒が主体的に行事・活動を行い、自分の役割を持ったり、達成感や感動を共有し合ったりして、一人ひとりの自己有用感、自己肯定感を高める。
- ・地域の人と様々な活動を共にし、思い・願いを知ったり、人に認められたりする経験を積み、自尊感情を高める。

- ・各教科普段から協同学習の理念（「誰もがができる分かるが大事→クラスの仲間の成長を皆で喜び合える」）を工夫・実践し、人権学習、朝鑑等を通し、自分の意見を素直に出し合う中で人の新たな一面を知ったり、自分の思いを広げたり深めたりして、自分が安心して出せる仲間づくりを行う。

思いの共有→結果、一つになれた○

一体感を → 一体感 ×

- ・生徒との教育相談等、一人ひとりに声かけ、話しをする時間を確保し、生徒に寄り添える教職員チームになる。

→ 生徒も教員も安心感、やりがい、充実感がもて、自他を大切にする集団

- ・日々の生活の中で、人権尊重の精神と行動が生かされる指導や支援を継続して行い
いじめ等の未然防止、早期発見、迅速対応を行う。

（重点事項2）

○学び続ける力

学びの楽しさを体感すると共に、今の自分の学力を把握し、伸ばそうとする。

- ・協同学習の理念を基に、授業づくりの10のポイントを全職員が実践する。

「個人思考」「学び合い」の時間を計画的に保証して、じっくり考えさせ、教師は待つ姿勢を大切にする。全員が1時間の内「わかった」「できた」と実感できる授業改善を進める。

- ・放課後補習、家庭学習では「今月の宿題一覧表（計画表）」を作成し、自ら計画的に行えるようにする。（補習で取り組み始め、続きは家庭で行うなど）
- ・授業の予習・復習を家庭でできるように、タブレット持ち帰り等自分に適した課題を行い、基礎・基本の徹底と家庭の学習習慣をつける。
- ・各教科の特徴を生かし、「学びの楽しさ」を体感させる。（タブレットを活用した学習の工夫、個の学力に対応した効果的活用）
- ・学び合いで学習の理解や基礎・基本の定着ができない生徒に対しては、小学校と連携し、個別に読み書きや計算などの力を実態把握し、受診や放課後の補習やカウンセリングで細かく対応していく。

（重点事項3）

○ふるさとを愛する心（自分を愛し、夢に向かう力）

夢に向かう力を育てることで、学習に対する意欲、主体性を伸ばす。

- ・ふるさとキャリア教育（日南学）では、各学年の題材のねらい（園小中で系統表を完成し）をしっかりと押さえた上で実践する。実践の資料、反省は記録し、次年度へ引き継ぐ。（行事等も含めたスクラップアンドビルド）
- ・地域の人との対話、フィールドワーク、調べ学習により、ふるさとの良さや課題に目を向け、主体的に自分の夢とまちの未来を考え、地域に発信し、解決や目標（夢）に向けて取り組む力を育成する。

- ・ 地域でのボランティアの情報を積極的に生徒に伝え、中学生の存在を生かした活動に協力すると共に、行事等の計画も「地域への貢献」を意識して行う。
- ・ 各教科、領域においても、「ふるさとに関するもの、こと、ひと」が活かせるところは積極的に授業の中で取り入れていき、日南学イベントで終わらず、横でつながるようにする。

(重点事項4)

○非認知能力と土台作り

- ・ 非認知能力（社会情緒スキル）の一貫教育の表をもとに意欲、「粘り強さ、忍耐力（困難に向かう力）」、をどう育成していくのか、データをもとにしながら研究に取り組んでいく。
- ・ 学習のめあて（学習）のレベルを少しあげたり、生徒が苦手、やりたくないと感じることも、学習・活動の価値や粘り強さ・忍耐力の大切さも語った上で、行ったりする。

・ 具体的な言動

「分からなかったけど、あなたのおかげで、できた、分かった。」

「あきらめず、やればできた。」

「難しかったけど、仲間とやったら解けた。」

「勇気を持って、思い、考えを伝えたら、考えが深まった、広がった。」

（人間的にも）「わかり合えた。」

「振り返りで自分の成長（分かったできた）を感じ、次への学習（今度は〇〇を知りたい、〇〇な疑問が発展した等）に繋げることができた。」

- ・ 園小と育てている「自己決定力」を伸ばすために学習や活動において、自分（達）で決めて行く場面を必ずもうける。
- ・ 小で育てている自己効力感を伸ばすために、分かったできたを自己で振り返ると共に、相互評価でお互いの良さを認め合う活動を取り入れる。

○土台となる学級づくり

- ・ 園の失敗しても良い雰囲気作りや、小の教室は間違ふところだ、の学級づくりを引き継ぎ、中学校では「分からないが言える仲間づくり」を行うための声かけ、評価を常日頃から行う。

（「みんなが分かることが大事」と、みんなが分かっている。分からないことは恥ずかしいことじゃない。そこから学びはスタートするということを分かっている。）
（×何でわからんの、そんなことも）